



はびきの Medical Net



FUTURE

呼吸器内科

慢性呼吸不全患者に対する治療の変遷と最近の治療

Pick up ————— 身体的拘束最小化チーム オレンジチーム（認知症ケア）
セミナー情報 ————— 第32回 医療でつなぐ地域連携ネットワークSOCC開催レポート
学会報告さるーと ————— 第62回 日本小児アレルギー学会学術大会 他
はびきのパーソン ————— 循環器内科 薬局
地域連携NEWS ————— 消化器外科 すべての領域で専門医による手術が可能に
連携医療機関のご紹介 — 天城医院さま たてやまクリニックさま



慢性呼吸不全患者に対する 治療の変遷と最近の治療

呼吸不全患者に対する治療でまず思い浮かぶのは酸素投与ですが、かつてはCOPDや肺結核後遺症、間質性肺炎などにより常時酸素吸入が必要になった場合、在宅での生活が極めて困難でした。医療施設でなければ安定した酸素供給を受けられず、長期入院を余儀なくされていたのです。

1985年の在宅酸素療法（HOT）の保険適用が転機となり、酸素濃縮器などの機器が普及しました。これにより、多くの患者の生存期間の延長やQOL改善が図られました。酸素濃縮器や携帯ボンベも性能が向上し、現在では10L/分といったかなりの高流量まで対応できる機器も登場しています。

しかし、重度の呼吸不全で高炭酸ガス血症を伴うケースでは、CO₂ナルコーシスにならないよう、きめ細かな酸素流量調整が必要です。



酸素濃縮装置
ハイサンゾi

その後、重度の呼吸不全で高炭酸ガス血症を伴うケースに対して、睡眠中や場合によっては一日中換気を補助する非侵襲的陽圧換気（マスク型人工呼吸器、NPPV）が普及しました。

これにより以前ならば気管内挿管・気管切開・人工呼吸器装着を余儀なくされていた患者がこれらを回避できるようになり、退院後も在宅で発声や食事しながら生活できるケースが増えました。



汎用人工呼吸器
(二相式気道陽圧ユニット)
NIPネーザルV-E



当センターの呼吸器内科の
詳細はこちらより確認できます。

【経歴・資格など】

1992（平成4）年 徳島大学医学部医学科卒

2003（平成15）年 大阪大学大学院修了（医学系研究科 分子病態内科学講座）

大阪大学医学部附属病院、大阪府立羽曳野病院、大阪府済生会富田林病院、

市立豊中病院などを経て、2008（平成20）年より当センター勤務。

2023（令和5）年より現職。

COPD、間質性肺炎、慢性呼吸不全などの呼吸器疾患を専門としている。

医学博士、日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・指導医、大阪府難病指定医

大阪府身体障害指定医（呼吸器機能障害）

FUTURE

今後の医療を見据えて

近年、非侵襲的治療の選択肢はさらに広がり、医療機関内で急性期の呼吸不全患者に対して行われる「高流量鼻カニューラ酸素療法（High-Flow Nasal Cannula; HFNC）」が導入されました。

これは、専用の広径鼻カニューレと加温加湿器を使用することで40～60L/分の高流量で酸素濃度21～100%の混合気を投与することができます。普通のカニューレでは6L/分以上の酸素投与を行うと鼻粘膜への刺激が強く、また乾燥するため、粘膜障害をおこしてしまいますが、加温加湿をすることによりそれを防いでいます。

一方、慢性期の呼吸不全患者に対する治療としては、在宅ハイフローセラピー（Home High-Flow Nasal Cannula; HHFT）が導入されつつあります。

これらは名称が似ていますが使用される場所、目的、対象患者が異なります。

HHFTは2022年の診療報酬改定で保険適用となり、HOTやNPPVでは効果が限定的であったり不耐性であったりするCOPDの慢性呼吸不全患者にとって、新たな治療の選択肢となりました。

呼吸不全の増悪頻度の減少やQOLの拡大といった効果が注目されています。

現在の保険適用は特定の条件を満たしたCOPD患者に限られており、今後は気管支拡張症や間質性肺炎などへの適用の拡大、普及に向けた課題が検討され在宅医療の幅を広げていくと考えられています。



加熱式加湿器
フロージェネレータmyAirvo

このように、在宅ハイフローセラピーはCOPDなどを中心に適用が広がりつつありますが、適応となる患者を適切に見極め、より良い在宅医療を実現するための検証が続いている段階といえます。

当センターでは難治性で長期間のフォローが必要になる呼吸器疾患や慢性呼吸不全患者に対して、より適切な医療の提供を目指しておりますので、外来や在宅患者様の中で対応に苦慮、難渋されている方がいらっしゃいましたらご紹介をよろしくお願いいたします。

写真は全て『帝人ヘルスケアHP』より

PICK UP

身体的拘束最小化チーム・ オレンジチーム（認知症ケア）



高齢化が進む中、急性期病院でも認知症高齢者は年々増加しています。

2018年（平成30年）、高齢認知症患者さんへのケアの質向上を目標に看護部でワーキンググループ（オレンジチーム）を立上げ、その後、看護師だけではなく、医師、薬剤師、作業療法士が加わり多職種で活動を継続しています。

また、2024年には、令和6年度診療報酬改定で、「医療機関において組織的に身体的拘束を最小化する体制の整備」が規定に追加されたことを受け、身体的拘束最小化チームを立ち上げ活動の強化を行っています。

私たちは、認知症があっても必要な治療を安全に受けられ、安心して療養できるよう、質の高いケアを提供すること、認知症症状の進行予防や、せん妄予防をはかり、早期に元の生活の場へ戻っていただけること目指して活動しています。

認知症ケア・オレンジチーム活動紹介

各病棟や外来、手術室ではオレンジチームのメンバーが中心となり、それぞれの部署の高齢者ケアの質向上に努めています。

2か月に1回の定例会議では、認知症看護認定看護師を中心に、各部署の現状の共有や対応を検討しています。また、認知症の理解や対応方法、せん妄対応などについてミニ学習などを取り入れ、高齢者ケアのスキル向上に努めています。



身体的拘束最小化チーム活動紹介

チーム会議は2か月に1回を定例としています。

会議では身体的拘束最小化への指針やマニュアルの整備を中心に、薬剤使用の適正化に関する意見交換や事例検討などを他職種で行っています。

また、具体的な拘束内容を量と質の視点でデータ化し、定期的に院内職員へ配信しています。身体的拘束最小化へ向けての実践的な取り組みをサポートしています。



ラウンド

患者さんにとってベッドとは、治療を受ける場だけでなく、生活の場でもあります。認知症高齢者を取り巻く環境面を中心に、チームでラウンドを行いました。

私たちは、患者さんの視点でラウンドして、患者さんの環境から感じたこと困っていることを見つけ、それぞれの部署での実践に活用します。



★ラウンドのポイント★

- *患者さんにとって安全な環境かな？
- *衛生面は？感染対策は大丈夫？
- *心地よく入院生活を送れる場となっていますか？
- *楽しくおしゃべりしてみましょう・・・



今回のラウンドでメンバーが感じたこと

- 昼間はカーテンを開けて日差しを取り入れ、昼夜のリズムを整えている
- テレビの見える位置にベッドのレイアウトを工夫
- 1日のスケジュールが分かるように日課表を見える場所に貼っている
- カレンダーは設置されていたが、患者さんから見えにくくはないだろうか？
- コミュニケーションがとりやすいようなカーテンの工夫とプライバシー確保のバランス



急性期医療の中だからこそ、認知症患者さんが安心できる環境や生活を支える支援、コミュニケーションが重要であると思っています。

認知症患者さんひとりひとりに合ったケアを考え、その人の療養生活をスタッフみんなで支えていきたいと思っています。

第32回 地域でつなぐ地域連携ネットワーク

S OCC 開催レポート

(South Osaka & Care Care)

2025年7月9日（土曜）17：00～19：20、TKPガーデンシティPREMIAM心斎橋にて「第32回地域連携ネットワークS OCC」を開催しました。

当日は、地域の医療機関や医師会の皆様に多数ご参加頂き、講演会では3題の発表が行われました。

いずれの講演も関心が高く、会場からは多数の質問が寄せられるなど、活発な意見交換がなされました。当センターは、引き続き地域医療連携の推進に努めてまいります。

院内外含め54名の方にご参加いただき、本会終了後の情報交換会も大盛況でした。

ご参加いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。



第32回 地域連携ネットワークS OCC当日プログラム

17：05

【教育講演】

座長／松原医師会会長／木下 裕介 先生

病診連携による骨粗鬆性骨折患者の二次骨折予防

大阪はびきの医療センター整形外科主任部長／西井 孝 先生

災害医療における在宅診療について

大阪急性期・総合医療センター高度救命救急センター／藤見 聡 先生

18：15

【特別講演】

座長／大阪はびきの医療センター院長／山口 誓司 先生

呼吸不全に挑む肺移植医療

大阪大学大学院系研究科呼吸器外科／新谷 康 先生

共 催

柏原市医師会・羽曳野市医師会・藤井寺市医師会・松原市医師会・大阪狭山市医師会・富田林市医師会・河内長野市医師会
大阪はびきの医療センター・帝人ヘルスケア株式会社

学会報告さるーと



第62回 日本小児アレルギー学会 学術大会が開催されました！

2025年10月4日（土）、5（日）大阪国際会議場にて、小児アレルギー学会学術大会が開催されました。現地参加者は1,500名を超え、活発な討議が交わされる大変盛況な会となりました。

参加費（非会員17,000円）は必要ですが、オンデマンド配信でノーベル賞を受賞された坂口志文先生のご講演が拝聴できますのでご検討ください。



大会長を務められた
小児科／亀田主任部長



【会長講演】

子どもたちの主体的な治療への関りへ向けた支援
広く、深く、そして高く！

発表者：小児科／亀田 主任部長

【シンポジウム】

耳鼻科医から見た小児アレルギー性鼻炎 診断・治療のコツ

発表者：耳鼻咽喉科・頭頸部外科／川島 副院長

気管支喘息の移行期医療

発表者：小児科／釣永 副部長

【一般口演】

医療機関を対象とした小児アレルギー疾患の
成人移行支援実態調査

発表者：小児科／釣永 副部長

アレルギー疾患合併児に対する経鼻弱毒生インフルエンザ
ワクチン（フルミスト点鼻液）使用における観察研究

発表者：小児科／釣永 副部長

れんこんアレルギーの3例

発表者：小児科／深澤 副部長

第118回 近畿皮膚科集談会が 開催されました。

2025年7月27日（日）オーバルホール（ハイブリッド開催）にて、同総会において当院皮膚科が主催を務め、

当日は木村診療主任を含めた35演題が報告される充実した会となりました。

地域の皆さまに、より安心で質の高い医療をお届けできるよう、私たちも日々学びを深めてまいります。



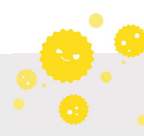
第64回 日本鼻科学会総会・ 学術講演会が開催されました。

2025年9月25日（木）～27日（土）東京ドームホテルにて、当センター副院長／川島耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長が、第64回日本鼻科学会で花粉症に関する市民公開講座を担当いたしました。

花粉症が重症化するのを防ぐために

～花粉症重症化ゼロ作戦～

川島佳代子(副院長／耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長)



当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けます。

ピックアップ

～ 当センターのスタッフを紹介します ～

はびきの パーソン

当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るく頑張っています！
少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです

循環器内科 副部長

はらだ

ひろし

原田 博

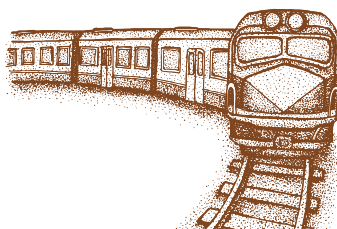
HIROSHI HARADA

近場の日帰り旅行

先日、秋分の日に吉野に行ってきました。

小学生のとき林間学校で訪れて以来、約50年振りでした。
通勤時、近鉄電車を使っているのですが、吉野行の電車を見るたびにまた行ってみたいと思っていたのが実現しました。
阿倍野から特急を使って約1時間20分くらいで着きました。

観光シーズンではないためか、人はまばらでゆっくりと山の空気と散策を楽しめました。
義経と静御前が最期に滞在したとされる吉水神社のあたりに吉野館という旅館があったのですが、靴箱のある広い玄関からすぐのところに大部屋が見えて、小学生のときおそらくこの旅館に泊まって雑魚寝をした記憶が戻り、外見からはほとんど変わっていない感じでした。
帰りに葛餅と奈良漬を買ってきたのでこれから楽しもうと思っています。



思い出の写真たち

薬局 薬剤師

な かい りょうた

中井 亮太

RYOTA NAKAI

半年限定の趣味

はびきの医療センターへ配属となり、2年目となりました。

薬剤師の中井です。

普段は離島旅とスキューバダイビングが趣味です。

さてみなさま、大阪万博には行かれましたか？公式キャラクターミャクミャクのグッズは買いましたか？この文章が掲載されるのが10月号ということで、会期末ラッシュで予約が取れないと悩む頃か、閉幕後の万博ロ스에悩む頃でしょうか。

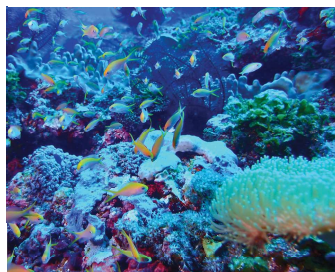
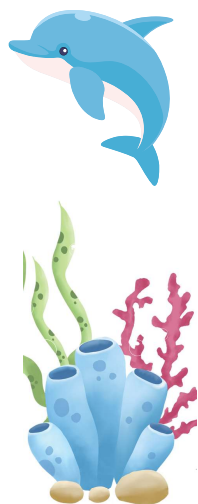
僕は通期パスで全パビリオン制覇を目指し、20回程通いました。

残念ながら予約がなかなか取れないものがあり、全制覇とはならなさそうです。

海外の文化や食べ物を楽しみながら、通うたびにミャクミャクグッズも増え、気づくと家にたくさんいます。数十年に一度の思い出に、皆様もいかがでしょうか。

万博で改めて感じたことは日本の四季の素晴らしさです。

離島旅でのダイビングや、冬の温泉旅など、これからも隅から隅まで日本を楽しみたいと思います。



思い出の写真たち



地域医療連携 NEWS



消化器外科 主任部長

いけだ こうせい

池田 公正

【経歴・資格など】

平成1年大阪大学卒。大阪大学医学部附属病院、西宮市立中央病院、市立豊中病院、箕面市立病院を経て令和3年より当センター勤務。令和7年より現職。
下部消化管外科（大腸・小腸）、骨盤外科（婦人科・泌尿器科との合同手術）急性腹症（穿孔等の緊急手術）を専門としている。
日本外科学会専門医、指導医、認定医、
日本消化器外科学会専門医、指導医、認定医、大阪府難病指定医

上部消化管・下部消化管・肝胆膵 すべての領域で専門医による手術が可能に。

消化器外科では2021年より増員を機に腹部救急を立ち上げ、2025年4月より上部消化管・下部消化管・肝胆膵すべての領域で専門医による手術ができる体制が整いました。

悪性疾患では食道・胃・大腸・小腸・肝臓・胆嚢・胆管・膵がん等、消化器外科で対象となるすべての癌の手術が可能となりました。

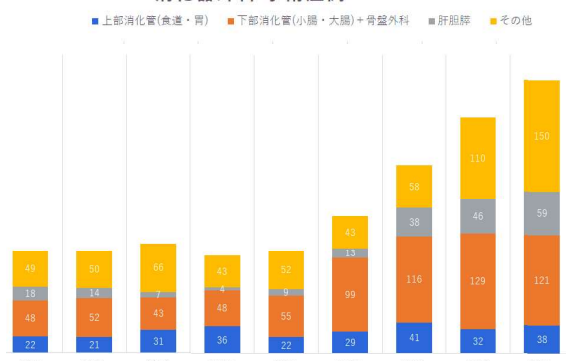
良性疾患においても胆嚢炎・虫垂炎・消化管穿孔などの緊急手術依頼にも対応可能となっており、その他ヘルニアや胃瘻造設・CVポート留置も行っています。

地域の先生方からのご紹介も増えており、手術件数で見ますと5年前より約3倍の増加となっております。

（右図）。

また当センターでは消化器内科の常勤医不在のため、これをカバーすべく消化器外科で内科疾患（胃腸炎、憩室炎、下血、胆嚢炎等）の入院治療も引き受けております。

消化器外科 手術症例



大阪府がん診療推進病院に指定されました。

当センターは2025年4月より大阪府がん診療推進病院に指定されました。

これまで以上に地域の先生方と協力しながらがん医療を進めてまいります。

がん地域連携パス（術後にかかりつけ医と当センターで交互に診療）もまずは大腸がん・乳がんを開始致しました。今後は胃がん・肝がん・肺がん・前立腺がんを整備する予定です。

これからも地域の医療機関に連携のお願いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。



当センターの消化器外科の
詳細はこちらより確認できます。

連携医療機関（登録医）のご紹介

天城医院

院長／天城 完二 先生

当院は一般内科を中心に診療を行っております。患者さんに安心して受診していただけるよう、わかりやすい病状説明を心掛け、そして納得したうえで治療に取り組んでもらえるよう努めています。

またスタッフ一同が明るく温かい雰囲気の医院づくりを目指し、地域の皆様に親しまれる「かかりつけ医」でありたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	/
17:30～19:30	○	/	/	/	○	/	/

〒583-0991 大阪府南河内郡太子町春日98-24

TEL. 0721-98-1163



たてやまクリニック

院長／立山 博一 先生

羽曳野市榎山で開業し、内科・皮膚科・麻酔科で21年目です。「信頼され温もりのある医療」を目指し、町のかかりつけ医として奮闘しております。職歴は福井県中心に大学附属病院、県立病院、市立病院に勤務し研鑽を積みました。麻酔科での循環・呼吸管理の経験を活かし内科、ICUでの重症熱傷治療経験で皮膚科を診察しており、乳児から高齢者まで幅広い患者様が受診されます。往診業務も行っております。新規は厳しい状態ですが、一度ご相談ください。

大阪はびきの医療センター様と病診連携を密接に行っております。病状に不安がある場合は遠慮なくお申し出て下さい。適切に対応いたします。

診療時間	月	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:30 受付は12:15まで	○	○	○	○	○	/
16:30～19:30 受付は19:15まで	○	/	○	○	/	/

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山265

TEL. 072-955-3005



◆登録医へのご登録のお願い◆

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。



地域医療連携室より

事前に予約をお取りください。

- ▶ 紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。
 - ▶ **呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科**は、**完全予約制**となっております。
必ず地域医療連携室を通してご予約をお取りくださいますようお願いいたします。
 - ▶ **当日の緊急受診**が必要な患者様におきましては、できる限りお受け入れできるよう調整いたしますので、**地域医療連携室にご連絡いただけますようお願いいたします。**
 - ▶ **オンライン予約システム（C@RNA Connect）**をご利用ください。
（事前に申し込みが必要です）。
- 詳しくはホームページまたは地域医療連携室にお問い合わせください。

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります。
私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、
思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL 072-957-2121 (代表)

<院内診療科のご案内> (令和7年11月現在)

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科、産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科、歯科口腔外科、麻酔科(高内 裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科、臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科



ホームページ



Face Book



Instagram



LINE

